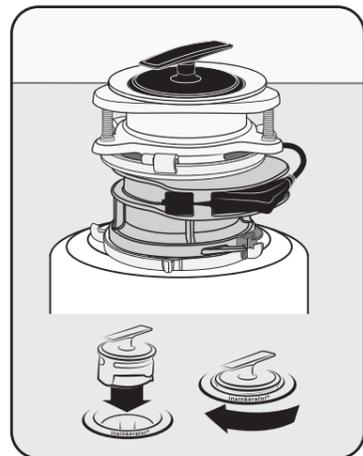
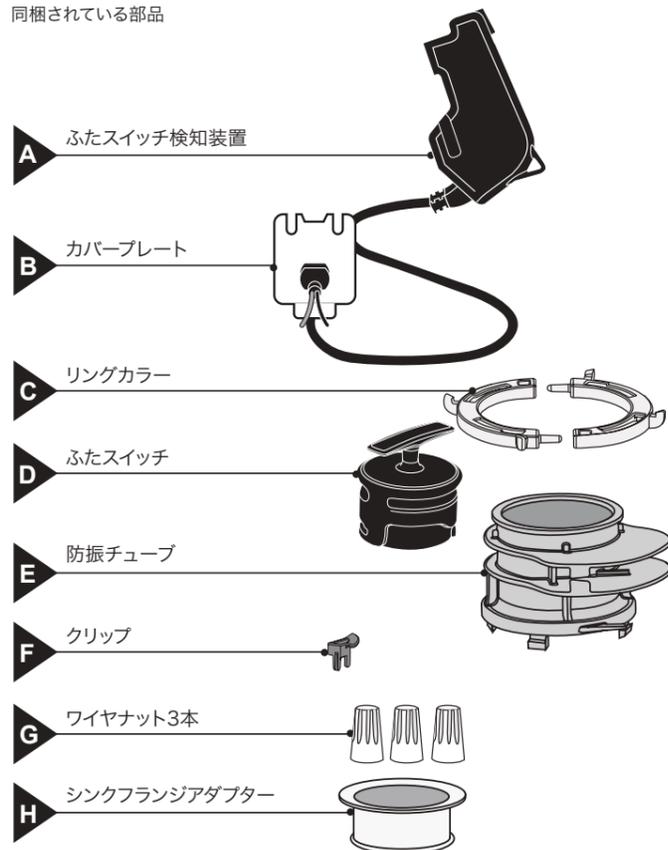


CCKIT-5 施工及び取扱説明書



かならずAC105施工説明書とともに使用のこと

同梱されている部品



安全上のご注意

*表示内容を無視して誤った施工をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し説明しています。

警告 この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。

注意 この表示の欄は、「損害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

警告

- ❗ 設置工事は設置専門業者または指定業者が行う。誤った設置工事は火災・感電・水漏れの原因になります。
- ❗ 設置終了後は設置が確実にできているか確認する。設置が不完全な場合は、本体の落下などによるけが、火災・感電・水漏れなどの原因になります。

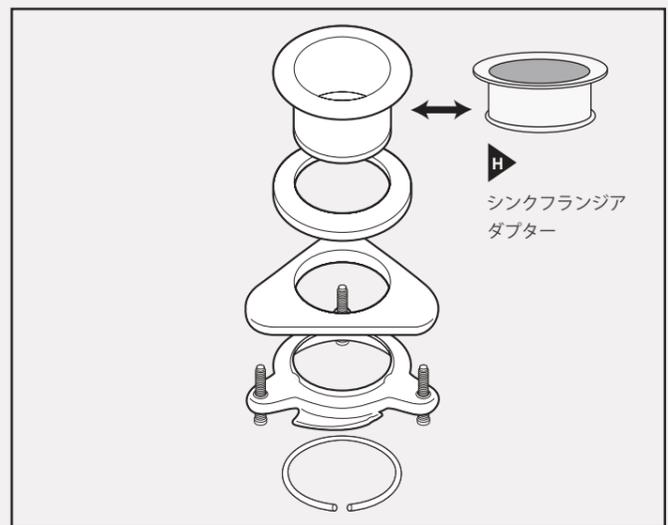
「取扱方法やディスポーザーに関するお問合せ」

esco 株式会社 日本エスコ
☎ 0120-101-539
公式WEBサイト: www.esco-j.com



STEP/STEP 1

● AC105のシンクフランジの分解とシンクフランジアダプター(H)の交換

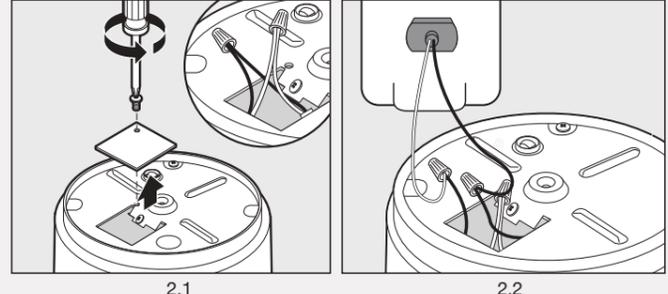


1. AC105のシンクフランジを、ディスポーザから取り外し、AC105施工説明書9、11ページの指示に従って分解します。
2. 分解したシンクフランジの部品のうち、ふたスイッチキットに同梱のシンクフランジアダプター(H)に入れ替えます。
3. AC105施工説明書9-12ページの指示に従ってシンクフランジのシンクへの取り付け作業を進めます。最後にシンクフランジアダプターの向きを調整する必要がありますので締め付けずに置いておきます。

STEP/STEP 2

● 電源線の接続

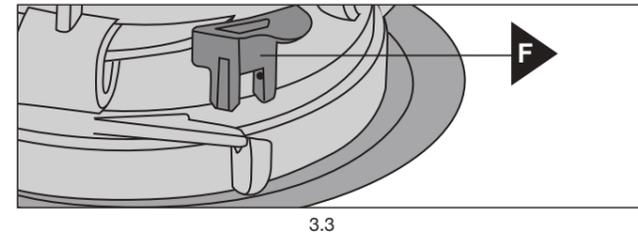
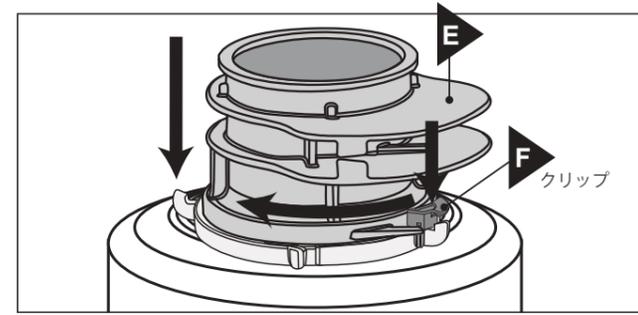
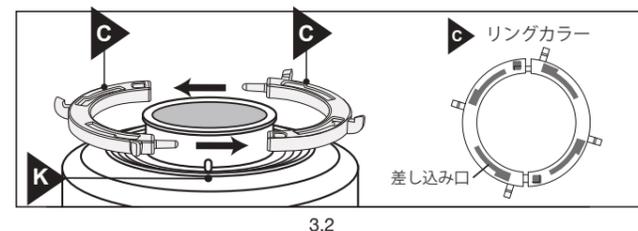
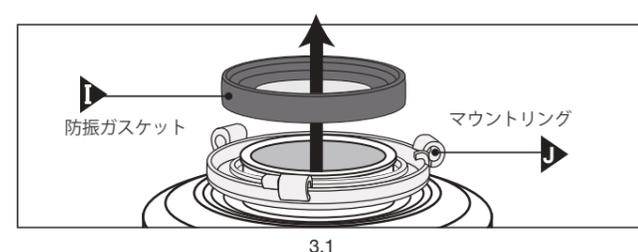
⚠ 安全のため施工の際には電源やブレーカーを落としてから作業をしてください。



1. 電源を切った状態で電源線の接続をしてください。2.1の図のように底版の電源カバープレートを外します。カバーは不要ですが取り外したネジは後ほど使います。
2. カバー内部に収まっている電源線を引き出してください。ひとつは2本の黒線が連結されており、もう一方は2本の白線が白黒線が繋がっております。カバーコントロールの検知スイッチとの結線はこの2本の黒線の方を使います。(2.1図)
3. 2本の黒線を外し各々約9.5mm程度線の被覆を剥いてください。
4. カバーコントロールの検知スイッチから出ている黒線と赤線をディスポーザ側からの2本の黒線にそれぞれ繋がります(2.2図)。線を結線する際には同梱のワイヤナット(G)をお使い下さい。
5. 絶縁テープ等で絶縁処理を行い、ディスポーザの底版の中に収めてください。その際、内部にある絶縁用ダンボールは取らないでください。
6. 1の作業で取外したネジを使ってカバープレート(B)をディスポーザの底部分に取り付けてください。

STEP/STEP 3

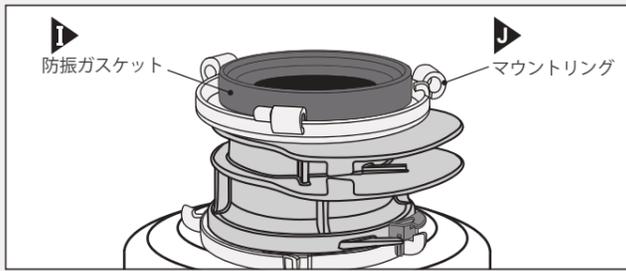
⚠ これらの部品の取り付けがふたスイッチのOn/Off位置を確定することになりますので説明をよく読んで理解ください



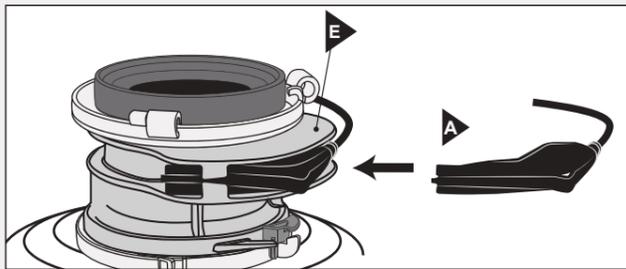
1. AC105のディスポーザ本体に着いている防振ガスケット(I)とマウントリング(J)をはずす。(図3.1)
2. ディスポーザの上部リング部に4箇所突起タブ(K)があります。そのどれかに合わせるようにリングカラー半円(C)を円状に組み合わせて乗せます。(図3.2.)
きっちりとクリックするのではなく緩やかに乗せて大丈夫です。
3. リングカラーには防振チューブ(E)のタブを差して回せるスロットが4箇所あります。そのスロットに防振チューブを差込み、回して固定するのですが、その前に、ディスポーザの取り付け位置と方向をおおよそ確定する必要があります。排水トラップの位置などを考慮してディスポーザの正面(ユーザ側)の位置を決めてください。図3.3のように防振チューブの飛び出した円板がなるべく斜め右前方向に来るような位置のタブを差し込み、時計方向に回して固定します。
4. 防振チューブを時計方向に回してラッチを乗り越えたところで固定します。必要であればディスポーザに付属しているレンチやドライバーを使い、台所洗剤などを塗って滑りやすくして取り付けてください。クリップ(F)を挿入して完了です。

⚠ 固定したあとは元に戻すことややり直すことはできませんのでご注意ください。

● 防振ガasket、マウントリング、ふたスイッチ検知装置(A)の取り付け



4.1



4.2

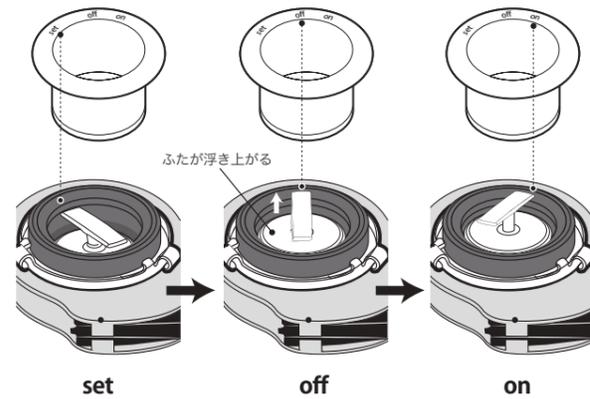
1. 先に取り外していた防振ガasket (I) とマウントリング (J) を防振チューブに取り付けます。(図 4. 1)
2. STEP 2 で電源線を接続してあるふたスイッチ検知装置 (A) を防振チューブ (E) に取り付けます。防振チューブの右斜め手前からスライドさせ左方向にある枠をくぐってカチッと止めます。(図 4. 2)



● ディスポーザの取り付けとシンクフランジアダプターの位置調整

1. ディスポーザを取り付ける前にふたスイッチの Off や On の位置の確認をします。

ふたスイッチを挿入して時計回りに回すことによって Off と On の大体の位置を把握してください。(ふたスイッチの使い方は次ページ参照) ふたスイッチはスムーズに挿入できる位置・角度があり、その際にはふたは沈んだ状態になります。そこから時計回りに回すとふたが浮いてきて止まるポイントがあります。そこが Off ポジションです。さらに 30 度ほど時計回りにひねったところが On の位置となります。

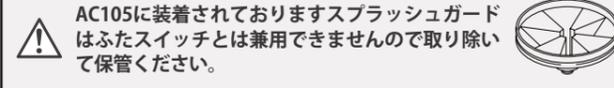


2. ディスポーザを持ち上げ、あらかじめ仮置きしているシンクフランジに取り付けますが、ディスポーザの取り付けに関しては AC105 の施工説明書を読んでください。その際、ふたスイッチの On や Off の位置を念頭に置きシンクフランジアダプターの位置を調整後、シンクフランジアダプターを締め付けて下さい。ふたスイッチの操作がしやすい適当な位置に Set (ふた挿入部)、Off, On が来るように、必要であればディスポーザ本体を回転させて位置調整をしてください。



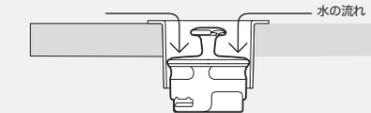
3. 以上のセットアップが完了してから電源コンセントをつないでください。

● ふたスイッチ (D) の使い方



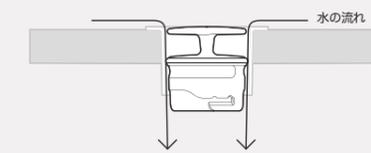
set

- ふたスイッチは Set の位置から挿入します。そのままシンクフランジアダプターの矢印に沿って時計方向に回して Off にします。



off

- Off になるとふたスイッチのレバーが少し浮く状態になります。この時点で蛇口からの水を流すと水はディスポーザ内には流れる状態になります。(Set や Off までの矢印の範囲では水はシンク内に貯まる状態になります。)



on

- さらに時計方向にひねって On にすることによってディスポーザは運転を開始します。



- ディスポーザの運転を止めるには左 (反時計方向) にまわし Off にします。
- ふたスイッチをはずす場合はさらに Set 方向に (反時計回り) 回して取り外せます。
- ディスポーザをご使用にならない時にはふたスイッチを Off の状態にしておいてください。
- ふたスイッチを外しておく場合には異物がディスポーザ本体に落下しないように市販の皿や AC105 に同梱されていますブラッシュガードを装着することをおすすめします。

1. 投入する生ごみの量はディスポーザ粉碎室に入る分だけです。防振チューブのところまで詰め込むことはやめてください。ふたスイッチが作動しない場合があります。
2. 異物を落とした場合は長い菜箸などを使って取り除いてください。

保証

今製品の保証期間は設置から一年です。

メモ